

～やっぱいいなあ大関～

とほほ大関

2024年2月号

Vol.31

大関まちづくり協議会・大関コミュニティセンター



お菓子まきを楽しむ子どもたち

もくじ

- 皆で大関音頭を踊ろう (2)
避難所開設運営訓練
青少年育成坂井市民会議会長表彰・
第18回坂井市花壇コンクール表彰
- わくわくニューススポーツ体験 (3)
光のカーテン
- 「海の宝石」シーグラスで作品づくり (4)
ペタンクであそぼう
6面チャレンジ&マジックショー
- コミセンまつりにぎやかに開催 (5)
ご長寿を祝おう
子ども感謝デー
- 通学路チェック with DX (6)
大関子ども農園
- 子どもとつくる環境を守る条例づくりに向けて (7)
ゴミ探検 DX
- ガンバ大関 (8)
委員募集
編集後記



振る舞い鍋を作るもりあげ隊の皆さん

大関小学校創立
150周年式典



◆皆で大関音頭を踊ろう



8月6日(日)「さかい夏祭り」総踊りのオープニングとして大関地区が中心となり音源を新たにしたり、「大関音頭」を踊りました。

昨年に引き続き、さかい夏祭りの総踊りに大関まち協として参加しました。

今回は、大関助け合いのまちづくり事業の“未来につながる大関音頭をつくろう”プランで新たに作った音源の「大関音頭」をみんなで踊りました。大

関小学校をはじめ各所に参加募集チラシを配布した甲斐があり、大関地区内外から延べ260名の方々に参加していただき、私たちが踊りの輪の中心となって踊ることができました。踊りの途中では、中央で踊っていた子供たちが「ホイサカ イヤサカ ヤットンナ」の後の“ソレ”というフレーズを大声で叫んでくれて大変盛り上がり周囲で踊っている方たちも満面の笑顔で楽しいひと時を過ごしました。前日には、丸岡町の“たかとり盆踊りの夕べ”に訪問させていただき「大関音頭」を踊り、たかとりの郷づくり協議会の皆様との交流・親交もできました。

この事業を行うに当たり、踊りの練習や準備にご協力頂いた方々や踊りに参加していただいた皆様に厚くお礼申し上げます。今後も大関地区の皆様が気軽に参加し笑顔で楽しく過ごせる事業を企画したいと思います。また大関小学校児童や大関地区の有識者の方々が中心となり作り上げていただいた「新・大関音頭」を踊る機会が増え、大関地区のあちこちで聞ける日を心待ちにしています。



◆避難所開設運営訓練

8月20日(日)に、坂井市の防災訓練が実施されましたが、これにあわせて、指定避難所になっている大関小学校で避難所開設・運営訓練を行いました。酷暑の中、大関地区の区長や福祉委員、消防団など50数名が参加しました。今回、特に感染症対策に焦点を当てており、参加者は訓練を通して多くのことを学びました。先般発生した能登半島地震でも避難訓練の重要性を改めて考えさせられたところですが、今後、より幅広い層の方々に参加してもらいながら、訓練を継続していく予定です。



◆青少年育成坂井市民会議会長表彰・第18回坂井市花壇コンクール表彰

坂井市ふるさとづくり大会が12月9日(土)、みくに未来ホールで行われ、長年にわたり小学校での読み聞かせなどの青少年健全育成に貢献されている関中区の定池りゆ子さん、東区の五十嵐秀雄さん、東中野区の浦井成男さんが、青少年育成坂井市民会議会長表彰を受賞されました。

また、第18回坂井市花壇コンクールでは、大味中サルビア会と大味下区若菜会が入賞されました。おめでとうございます。



◆わくわくニュースポーツ体験会

今年は大関小学校体育館と大関コミュニティセンターの2会場で、ドッジビー・輪投げ・ワンバウンドフラバールバレー・ディスクゴルフ・スポーツチャンバラ・ポッチャの6種目を11月12日(日)に行いました。幼児と小中学生、一般の方、坂井きらめきなど多くの方に楽しんでいただき、あちらこちらから笑い声が聞こえてきました。また、参加者同士で声をかけあったり応援したりと、見知らぬ中であっても以前から知り合いのようなほほえましい交流も見られました。

小雨まじりの少し肌寒い日でしたが、会場はなごやかで暖かい空気に包まれていました。足元の悪い中、体験会に参加されました地区の方々、ありがとうございました。



◆光のカーテン



恒例となった光のカーテン事業では、11月23日(木・祝)に大関コミュニティセンターと大関駅にLEDイルミネーションの設置作業を実施しました。当日は事業メンバーのほか、坂井きらめきの方々にもご協力いただき、無事に設置することが出来ました。

大関駅の方はしばらく設置していなかったのですが、手探り状態ではありましたが、大関が少しでも明るくなればと思い、メンバーで意見を出し合いながら駐輪場をメインに設置しました。

地域の方々はもちろんのこと、大関に来られたの方々にも大関を明るく照らすイルミネーションを楽しんでもらえたらと願っています。



大関コミュニティセンター講座

「海の宝石」シーグラスで作品づくり ～大関小学校150周年記念事業を盛り上げる～

8月19日(土)にコミセン講座「シーグラスアートづくり」を行いました。

シーグラスは、海岸や湖の湖畔などで見つかるガラスのかけらで、波にもまれて角が取れて曇りガラスの様な状態になった物の事をいいます。材料は、6月25日(日)に鷹巣海岸で拾い集めたシーグラスや貝殻を指導者の五十嵐愛海さんが綺麗に消毒した物を使いました。シーグラスや貝殻の色や形を上手に使って、皆、それぞれに素敵な作品に仕上げていきました。作品は、10月22日(日)に行われた大関小学校150周年記念で飾り、式典に花を添えました。



大関子ども教室

ペタンクであそぼう

8月23日(水)は大関児童館でペタンク競技を行いました。

ペタンクは目標球に金属製のボールを投げ合って、相手より近づけることで得点を競うスポーツで年齢に関係なく誰でも楽しめます。今回も坂井市スポーツ推進委員の平田さんと大関体育協会の糸魚川さんの指導の下、赤チームと青チームに分かれて対戦しました。始めは「よくわからない」と言っていた子たちも段々とコツを覚え、思った場所にボールを投げられるようになると「もう一回やろう」と暑さも忘れて盛り上がりました。



6面チャレンジ&マジックショー

11月19日(日)の大関コミュニティセンター祭の中で、ルービックキューブを揃える6面チャレンジを開催し、3分以内に何面そろえられるかを競い合いました。

6面をそろえる児童はいませんでしたでしたが、1面は難なくクリアする児童が10人以上いて驚きました。難しいという児童には1列だけでも揃えてもらい、達成した喜びやチャレンジの面白さや大切さを伝えることができました。

また、センター長がマジシャンとなりマジックショーを行いました。保育園児から大人までが参加し、「あー分かった!」とタネを考え言い合いました。マジックを通して、子どもたちの好奇心や想像力を養うことができました。



◆コミセンまつりにぎやかに開催



毎年3月に開催されていた大関コミュニティセンターまつりを今年度は11月19日(日)に行いました。サークルの方の作品展示、舞台発表、子ども縁日に加え、抽選会に参加できる企画も取り入れるなど、会場は沢山の人で溢れました。焼き芋やたこ焼き、スモージーは行列ができるほど大盛況で、まつりに参加してくださった方は「素敵

な作品やステージ発表を見て楽しかったよ」「まつりは人がたくさん集まるからいいね」「久しぶりに楽しめた」と皆さん満足そうでした。

まつりに参加された皆様、運営にご協力いただいた皆様ありがとうございました。



◆ご長寿を祝おう



大関地区の75歳以上362人の方を対象に、区長さんを通して敬老のお祝い品を配りました。

各区の区長さんが家庭訪問し、「お茶」と「児童からの励ましのメッセージ」を配り、声かけをしながら見守り活動を行いました。これからも、ご壮健にご活躍されますようお祈りしています。

◆子ども感謝デー

毎月行っている子ども感謝デー。1月はドキドキワクワクの「新春運だめしくじ」を行いました。

楽しいイベントがたくさんありますので皆さん遊びに来てくださいね。



◆通学路チェック事業 with DX

10月14日(土)に大関小学校 PTA 主催の通学路チェックを実施しました。この事業は昨年から坂井市の DX 推進室にサポートいただき、通学路の危険箇所を Web 上で確認できるようになりました。

今年は大関小学校児童の保護者や地域住民にて、主要な3つの通学路を確認しました。通学路を大人が歩く機会は少なく、いろいろな危険が潜んでいることを体感する良い機会となりました。

最近ではブロック塀の倒壊事例もあり、該当箇所がいくつも見受けられました。その他に街路樹跡の陥没穴・車の停止線が消えている・雑草の繁茂による見通し不良など、複数の危険箇所を発見することができました。

次年度以降も本事業を継続して、子どもたちのみならず、地域住民の方々に対しても注意喚起できればと考えております。



◆大関子ども農園



夏野菜の栽培に続き、東区の五十嵐秀雄さん指導の下、大関小5年生が9月13日(水)に秋野菜の播種や苗植え作業を行いました。ダイコンなどが発芽して喜んでいたら、残暑が厳しく、ほとんどの新芽が虫食いの被害にあい、種の蒔き直しや防虫ネットでの策を施しましたが、なかなか成長がうまくいかず、秋の朝市への出店は見送りしました。10月2日(月)に、サツマイモ堀りをして、収穫したサツマイモは10月22日(日)の大関小学校150周年記念式典でサツマイモチップスを作って振る舞いました。



今年の子ども農園では、種を蒔くだけでは実らないことや野菜が食べられることは当たり前ではないこと、地産地消の大切さを学びました。

◆子どもとつくる環境を守る条例づくりに向けて



FBC ラジオに出演

8月10日(木)、FBC ラジオの福運良運大吉コーナー「子育てコーナー」に大関キッズクリーン隊の伊藤唯花さんと道場鈴さんが生出演しました。二人は、これまで取り組んできた「ゴミ探検」を通して「環境を守るためのルール作り」の必要性を力強く伝えることができました。

福井新聞サステナ 2030 の取材を受ける

「子どもとつくる環境を守る条例」の提案に取り組んでいる大関キッズクリーン隊の藤田悠馬さん、高橋百合香さん、佐々木莉心さんが代表で取材を受けました。



条例づくりに向けたワークショップ

6月の出前授業、九頭竜川河口部の調査そして7月の子ども会議と条例づくりに向けた取り組みを重ねてきた子どもたちが、いよいよワークショップで条例案を話し合う時を迎えました。10月7日(土)の第1回目のワークショップでは、子ども会議で出されたたくさんの提案をもとに作られた条例案について話し合いました。条例を読んでみて「分かりにくいところはないか?」「足りないことはないか?」など一つ一つ丁寧に確認していきました。11月3日(金・祝)の第2回目のワークショップでは、子どもの意見を取り入れて修正されたところを確認しながら条例案を仕上げることができました。

坂井市長にプレゼンテーション

12月21日(木)大関小学校6年生の児童全員が、坂井市役所で市長や教育長に自分たちが作った環境を守る条例の案を説明しました。プレゼンでは、条例には、子どもたちがこれまで取り組んできた調査の結果を反映させていることや市民の責任や坂井市や事業所の責任なども盛り込んでいることを説明しました。さらに、市民である私たちが頑張るので、市長にもぜひ応援してほしいというメッセージを伝えてプレゼンを終わりました。



◆ゴミ探検DX

11月3日(金・祝)第4回クリーンアップ作戦「ゴミ探検DX」を行いました。今回は、福井県立大学の学生も参加しての活動となり、若い力を発揮できた「探検」となりました。初めて参加した保護者の方からは、「こんなに素晴らしい活動とは知りませんでした。これからもずっと参加したいです。」「捨てられているゴミを見て、環境を守っていかなくてはと強く思いました。」などの感想を聞くことができました。大関地区全体が環境を守るモデル地区になるといいなと思いました。



ガンバ大関!!

大関まちづくり協議会では、大関在住者や出身者の方々が地区内外で頑張っている姿を紹介します！



今回は、大関助け合いのまちづくり事業の一つである「大関居場所づくり～みんないっしょに～」の運営に中心的に活動されている西区の虎尾正子さんにお話を伺いました。

Q. まず「大関居場所づくり～みんないっしょに～」について改めてどのような活動か伺います。

A. 大関コミュニティセンターで毎月第一土曜日に、子供たちだけでなく、いろんな世代の方が気軽に立ち寄って一緒に食事をするので楽しいひと時を過ごしてもらっています。そしてそこで知り合い、いざ困った時には助け合える関係づくりができることを目的としています。



Q. この活動を立ち上げるきっかけは何ですか。

A. まちづくり協議会で作った「大関助け合いのまちづくりプラン」の中で、住民が気軽に集える場づくりが求められていて、コロナ禍ではありましたがボランティア仲間とともに私たちが出来ることをと思い始めました。

Q. 立ち上げから3年を振り返って、苦労した事や嬉しかった事などを教えてください。

A. コロナ禍で立ち上げたので感染症対策などに気を配りました。また、喜んでもらえるお弁当を予算内で行うか心配しましたが、地域の人たちから食材提供や金銭援助の善意もあり、工夫しながらなんとかやっています。毎回たくさんの子供たちや地域の人に来てくれて、運営仲間たちと一緒にワイワイ言いながら楽しくやっています。現在は、みんなで食事をする事に重点をおいていますが、子ども達には弁当にも対応しています。



Q. この活動を継続していくにあたり、大事にしている事がありますか。

A. 一緒に運営している仲間同士のつながりや、毎回顔を見せてくれる子供たちや地域の人とのつながりを大事にしています。また同様の活動をしている市内外のグループとのネットワークもとても大事だと思っています。このような活動に興味を持たれた方、遊びに来てくださいネ。



Q. 今後の展望、抱負、あるいは課題などありますか。

A. いろんな方の意見を聞いてみると、現在の運営のやり方で進めていけば良いのかなと感じています。今は月1回の開催ですが、ゆくゆくは回数を増やしたり、大味地区や関地区に出向いていく事も考えていきたいと思っています。そのためにも、一緒に活動してもらえる仲間や場所の提供を募っています。

Q. 最後に、虎尾さんはまち協の「大関助け合いのまちづくり事業」の推進委員長もされていますが、これからの大関のまちづくりへの思いを聞かせてください。

A. 現在でも大関のまちづくりは活発に展開しているように思いますが、まち協で今後開催するワークショップなどでさらに地域の声を拾い、その声を形にしていける新しい人たちのまちづくりの動きに期待したいと思います。そういった声があれば、しっかりサポートしていく体制づくりがとても大事だと思っています。



編集後記

どすこい大関第31号の発刊にあたり、様々な事業やその事業取材にご協力して下さった地域の皆様に深く御礼申し上げます。また、元日に能登震災が起き、たくさんの方々がお亡くなりになり、未だ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。連日の避難所の報道では、地域の方々つながりや助け合いの精神の大切さがとても伝わってきます。大関地区においても、日頃からの地域の連携を深められる「やっばいいなあ大関」と思えるまちづくりと一緒に築いていきましょう。(K.T)

大関を盛り上げてくれる仲間を募集します！

大関が好き！大関をもっとよくしたい！まちづくりに興味がある方、ぜひ一緒に活動しましょう。



LINE 公式アカウント

050wwwps

検索



Instagram

大関コミュニティセンター

検索



大関まち協メールアドレス
ozeki-p@mx3.fctv.ne.jp

大関コミセンメールアドレス
ohzeki-cc@city.fukui-sakai.lg.jp



どすこい大関

～やっばいいなあ大関～

編集・発行 大関まちづくり協議会 広報委員会 大関コミュニティセンター内 坂井市坂井町東 12-5-1 TEL:07(67)2-1957 FAX:07(67)2-1955